

瑞穂市で活躍する女性に聞く

「男女共同参画」

市では、『「おもいやり」「ささえあい」から始まる瑞穂の夢のまちづくり』をスローガンに、男女がお互いを尊重し、性別に関わりなく個性と能力を活かして充実した生き方ができる社会づくりを目指しています。

今回は、ラジオ番組「もくようみずほ785」でおなじみの武山幸子さん、相原佳子さんにお話を伺いました。

テーマ：出会いに学び教えられ

Q武山さんはアナウンサー、相原さんは市民リポーターやメイクセラピストとして活躍されていますが、そのお仕事・活動を始めたきっかけを教えてください。

武山さん(以下:武):中学2年生のとき、国語の授業で先生に音読を褒められたことがきっかけでした。高校生になり、本格的にアナウンサーを志望し、大学もアナウンサーへの道が近いところへと思ったのですが、なかなかそうはいきませんでした。

そこで、大学4年間は「学生放送連盟」というサークルに入り、発声の練習をしたり、取材に出かけたりと、学生なりにアナウンサーの勉強をしていました。そして、幸運にも、名古屋の某放送局に採用が決まったのです。私が中学時代から抱いていた夢の第一歩でした。

相原さん(以下:相):メイクセラピストとしての活動は、子育てが落ち着き、「何か始めたい」と思ったことがきっかけでした。たまたまメイクセラピーの先生を知っていたため、すぐに先生を訪ね、教えてもらいに行きました。

武山さんとの出会いは、「もくようみずほ」がきっかけでした。瑞穂市でのボランティアメイクセラピー活動を紹介するために「もくようみずほ」に出演したとき、武山さんからリポーターをやってみませんかと声を掛けられ、市民リポーターを始めました。

武:「相原さんの明るさと笑顔は、絶対リポーターに向いている!」と思って、声をお掛けしました。(笑)

Qお仕事をしている中で感じるやりがいを教えてください。

相:メイクセラピストとしてのやりがいは、最初は「メイクなんて…何十年もしていないもの」と遠慮されていたかたがたが、メイクをすることにより、元気になられ、笑顔になられることです。私も力をいただきます。

市民リポーターとしてのやりがいは、様々な人との会話を通して、新しいことを知ることです。

武:私も同じです。自分が知らない、出来ない、考えもしないことを教えていただけることが、楽しくて、うれしくて、やりがいになっています。

過去の記事や男女共同参画に関する取り組みについて、詳しくはこちらからホームページをご覧ください。
<http://www.city.mizuho.lg.jp/3923.htm>



この記事についてのご意見・ご感想をお待ちしております。

●問い合わせ 総合政策課 ☎327-4128

✉sougou@city.mizuho.lg.jp

FAX 058-327-4103

URL <http://www.city.mizuho.lg.jp/3913.htm>



市民リポーター・メイクセラピスト あいはら よしこ 相原 佳子さん(写真左側)
武山アナウンスオフィス たけやま さちこ 武山 幸子さん(写真右側)

Q「もくようみずほ」をやってきた感想を教えてください。

相:「いつでもどこでも参上」をモットーに活動してきましたが、市民リポーターとして、瑞穂市のいろいろな場所、そして、たくさんのかたがたとの出会いは、毎回感動の連続でした。マイクを通して伝える喜びを知りました。今では瑞穂市の観光ガイドもできますよ。(笑)

武:13年間「もくようみずほ」を担当させていただき、本当にたくさんの方の市民のかたに出演していただきました。

一回の放送に20名くらいの方みなさんにスタジオに入ってもらったこともありますよ。もちろん、入れ替わり立ち替わり話していただきましたね。

番組がスタートした時、瑞穂市民全員のかたに出演していただくことが目標でした。

行政の情報を市民に発信し、市民のみなさんの活動も広めていく。「もくようみずほ」は、そんな行政と市民のかけはしになっていたと感じます。

Q「何かで活躍したい!」「何かやってみたい!」と考えているかたに応援メッセージをお願いします!

武:本当に「これをやりたい」という気持ちがあれば、行動に移すべきです。それを見て、応援してくれる人はきっと現れると思います。

まずは、自分が働ける環境を作っていくことが大切ですね。働ける環境というものは、待っていても来てくれるものではありません。自分の意志と情熱で作るものではないかと思います。

相:そうなんです!「やりたいな」と思って行動すれば、ご縁にも恵まれて、人との絆も強まり、実現につながるはずですよ。

武:本当に自分が実現したいことであれば、その夢やビジョンを明確にし、気持ちを常に熱くして、調べたり、人に働きかけたりと、コミュニケーションを大切に、まずは一歩を踏み出していただきたいですね。

相:その一歩を踏み出せば、必ず何かを掴むことができるのではないのでしょうか。半歩踏み出すだけでも変わります!

武:何事も、始めるにあたって遅いということはないと、私は考えています。

このコラムが、みなさんが半歩踏み出すためのきっかけとなれば、うれしく思います。